

平成23年度 石狩市教育委員会会議（10月定例会）会議録

平成23年10月25日（火）
第2委員会室

開 会 午後 1時30分

○委員の出欠状況

委 員 氏 名	出席	欠席	備 考
委員長 中 村 照 男	○		
委 員 伊 藤 好 美	○		
委 員 土 井 久美子	○		
委 員 門 馬 富士子	○		
教育長 樋 口 幸 廣	○		

○会議出席者

役 職 名	氏 名
生涯学習部長	三 国 義 達
理事（市民図書館長）	百 井 宏 己
次長	厚 海 嘉 孝
総務企画課長	上 田 均
学校教育課長	池 田 幸 夫
社会教育課長	東 信 也
文化財課長	工 藤 義 衛
厚田生涯学習課長	池 垣 旬
教育支援センター長	西 田 正 人
市民図書館副館長	丹 羽 秀 人
総務企画課総務企画担当主査	寺 嶋 英 樹
総務企画課総務企画担当主査	吉 田 雅 人

開会宣告

（中村委員長）ただいまから、平成23年度教育委員会会議10月定例会を開会します。

日程第1 会議録署名委員の指名

（中村委員長）日程第1 会議録署名委員を指名します。門馬委員にお願いしま

す。

日程第 2 議案審議

(中村委員長) 日程第 2 議案審議を議題とします。

議案第 1 号 石狩市教育委員会の点検・評価報告書（平成 22 年度分）について

(中村委員長) 議案第 1 号 石狩市教育委員会の点検・評価報告書（平成 22 年度分）について、ご提案願います。

(樋口教育長) 議案第 1 号 石狩市教育委員会の点検・評価報告書（平成 22 年度分）について、これまでご協議いただきました内容について、別紙のとおり決定したいので、石狩市教育委員会事務委任規則第 1 条第 16 号の規定に基づき、議決を求めるものです。内容の部分については、事務局から説明をお願いいたします。

(上田課長) 議案第 1 号の石狩市教育委員会の点検・評価報告書（平成 22 年度分）について、ご説明を申し上げます。本件につきましては、7 月の定例教育委員会会議以降 3 回に亘って、ご協議をいただいていたところでございます。この度、外部評価委員のご意見をいただきまして、報告書の全てが整いましたので、改めてご説明をさせていただきます。報告書の構成につきましては、目次にありますように「点検及び評価について」、「教育委員会の活動状況に関する点検及び評価」、「平成 23 年度（平成 22 年度実施事業）事業評価シート」、「点検及び評価に対する学識経験者による意見について」の 4 部で構成しています。「点検及び評価について」及び「教育委員会の活動状況に関する点検及び評価」については、前回までご意見等をいただく中で、作成しているところであります。今回、48 頁から 107 頁まで「平成 23 年度（平成 22 年度実施事業）事業評価シート」として 30 事業を抽出していますが、見開きの右側の頁の記載のとおり、課長評価（1 次）、部長評価（2 次）を整えたところであります。部長評価の今後の方向性についてですが、事業内容について拡充するべきというのが 9 事業、改善を図るというのが 10 事業、現行通りというのが 8 事業、その他が 3 事業という内訳になっております。事業コストについては、増加を図るべきというのが 13 事業、現行水準とするというのが 14 事業、その他が 3 事業という内訳になっております。また、課長評価と部長評価では、11 の事業について評価の有効性の部分が変わっているところであります。続きまして、108 頁をご覧いただきたいと思っております。こちらは、点検及び評価に対する学識経験者による意見についてという表題で、111 頁まで 4 頁に亘って記載をしております。この部分については、

点検評価の実施にあたってということで、進捗状況の総括、課題や今後の取り組みの方向性についての内部評価と併せて、学識経験者の知見活用ということで、外部評価委員会から意見や助言をいただいたところであります。外部評価委員会については、10月5日の水曜日に開催し、3名の委員の皆さまから13の項目に亘って、ご意見等をいただきました。108頁の2の意見の内容という部分になりますが、(1)の教育委員会会議等の活動状況に関する分、(2)の教育委員会会議以外の主な活動状況に関するもの、109頁以降には教育プランの11の施策の大項目に対応する形で、それぞれの取り組み状況、分析・評価及び今後の方向性について、表の枠の中に記載をしております。このような構成で、22年度分の教育委員会の点検・評価報告書として取りまとめが出来たところであります。この点検・評価報告書については、本日議決をしていただけたら、12月の定例市議会の方に報告するため、資料として提出することとしております。説明については、以上です。

(中村委員長) ただいま提案説明がありました議案第1号について、ご質疑等ありませんか。

質疑応答

(土井委員) これだけきちっとまとめていただいて、ありがとうございます。外部評価委員の意見の部分を中心に読ませていただきました。分析・評価及び今後の方向性の中で、事務の管理及び執行の状況に多くの評価をいただいていることについて、事務局の方々が本当に一生懸命行って下さったということで、私からもお礼を申し上げたいと思います。特に、教育委員会会議以外の主な活動の中で、社会教育委員との意見交換を行ったことが、非常に評価をされています。私もとても良かったと思っています。社会教育委員との意見交換等によって、あい風寺子屋運動に繋がるなど、素晴らしい成果も上げています。更にもう一步進めて、家庭教育関係者・学校教育関係者との意見交換を行うことも良いのかなと思っています。今後のあり方の中で、地域の教育課題を市民と教育委員・社会教育委員等が共有できるような場の充実を期待するという記載がありますが、23年度は家庭教育の関連の部分で、もう少し考えていきたいと思いながら読ませていただきました。

(中村委員長) 土井委員から更にもう一步進めて、家庭教育関係者・学校教育関係者との意見交換をというご意見がありましたが、これに対して事務局から何かございませんか。

(三国部長) 土井委員が指摘された部分については、外部評価委員から相当高い評価をいただいております。教育委員の皆さんが、他の審議会と意見交換してい

る例は、他の自治体ではあまりないということで、この点を高く評価されています。社会教育委員のほか様々な方々と意見交換等を更に活発化するようにというのが、外部評価委員会のご意見であります。今年度についても、後ほどその他の中でご報告させていただきますが、別な審議会委員との意見交換を図る場をセットしたいと思っています。今年度は、図書館協議会委員との意見交換ということで考えていますが、読書を通じて家庭教育に携わっている方もいますし、土井委員のご指摘の部分も意見として交換ができるのではないかと考えております。

（中村委員長）家庭教育関係者とは、今年も実施した単P会長・市教育委員会交流会というイメージなのでしょうか。PTAとの交流をもう少し教育委員の皆さんが見える形にしていくべきということでしょうか。

（土井委員）別々に実施するのではなく、一緒に交流することが良いのかと思います。もちろん、単P会長との交流では、PTAの方もいらっしゃるのですが、学校単位での問題も結構ありますので、もう少し広い範囲で交流が行われればと思っています。社会教育委員と学校教育、先生、PTAと、対象の範囲は大きくなりますが、今後、寺子屋事業の分析や総括をする中で、そういう意見も出てくるかと思います。私自身、しっかりとした考えはないのですが、家庭教育との結び付きが、大事であると思います。家庭教育と学校教育と社会教育、この3つが教育委員会のテーマですので、それらの繋がりを持てるようにするためには、どうしたら良いのかということを考えていたところです。

（中村委員長）教育委員会会議以外の主な活動における今後の活動のあり方については、今後、充実を期待するというご意見に応えようという気持ちから土井委員がおっしゃっているわけですので、来年にトライできるかどうかということも含めて、土井委員の思いを形にしていく工夫をしてみましょう。出来る部分を見出して行って、そこに向って行ければと思います。

（伊藤委員）教育委員会会議以外の主な活動の今後の活動のあり方の部分については、私どもも多くの時間を費やして、表現内容とかを検討した部分が高い評価をされているということで、本当に良かったと思っています。それ以外についても、評価できる部分がたくさんあります。13項目に亘って評価をいただいておりますが、10月5日に開催された外部評価委員会の中で、この13項目のうち、一番議論になった部分はどこですか。

（上田課長）外部評価委員会当日は、2時間近くご議論いただいたところですが、事前に各委員さんから意見をいただいたものをペーパーとしてまとめまして、それぞれいただいたご意見をお話していただきました。集約したものが、108頁の意見の内容であります。全ての部分において、満遍なくご議論いただいたところなんです。

（門馬委員）意見の内容のコメントのところを読みまして、（1）で市民が教育行

政に関心を持ち、参加意識が高まるような工夫も期待したいという言葉で結ばれています。これについては、前回まで議論しましたように、我々の活動が如何に市民に知らされているのか、理解されているのか、というようなことも関わってくると思います。それが、例えばあい風寺子屋事業に繋がり、或いは社会教育活動に繋がっていくだろうと思います。参加意識が高まるような工夫も期待したいということですが、この辺をどのように行ったらよいかと思いながら、この文章を読んでいました。確かに、教育というのは学校だけでは勿論できるものではありませんので、地域全体の教育力が高まらなければいけないと思います。そうした場合、教育委員会と地域の方々とが、どう肩を組んで子どもたちを育んでいくのか、これが大きなテーマになるだろうと思います。では、具体的にどのように行うかと考えた時に、大変難しいと感じました。先程から、あい風寺子屋事業の話が出ていますが、これは市民が教育事業に参加するという、新しいスタイルの形だということで評価もしていただいています。そういうことを発展させていくと、土井委員がおっしゃったような部分で、あい風寺子屋事業に関わっているボランティアの方々たち、このの方々たちには、実際に接する子どもたちを通じて家庭が見えてくるわけです。ですから、土井委員がおっしゃったようなことを実現させるためには、例えば、あい風寺子屋事業に協力をして下さっている方との交流を行うことも良いのではないかと考えます。直接、保護者の方を集めることは大変だと思いますが、まずは、第1段階としてボランティア活動を行っている、現場にいる、活動している地域の方々たちとの交流も良いかなと思いました。そのようなことから始めて、教育委員会の活動を地域の方々にも理解していただき、協力もいただく、地道な活動を続けていかなければならないのかと思いました。

この事務事業の評価シートは、市民に公表し、意見を求めたと思いますが、何か意見はありましたか。

（上田課長）残念ながら、ご意見はありませんでした。

（中村委員長）点検及び評価に対する学識経験者のご意見は、意見内容の殆どが「期待したい」と括られておりますが、110頁の教育支援センターについては、今後とも積極的に交流を深めて「もらいたい」と表現されており、「期待したい」という表現と違っております。ここには評価する先生方の強い思いが込められていると思われませんが、事務局としてこの部分をどう受け止められたか、感想や状況をお話していただければと思います。

（上田課長）この意見は、田中委員からの意見です。田中委員は、元学校の校長先生をされていて、石狩市退職校長会の副会長ということもあって、外部評価委員になっていただいております。田中委員のご経験の中で、自治体の枠を超え、指導者や子どもの交流が行われることが、大変意義があることではないかということで、今回、ご意見の中にいただいたところです。

（三国部長）私からも補足をさせていただきます。大筋は、上田課長の説明のとおりですが、田中先生が石狩市の不登校適応指導教室の担当者もなされていた経験もあって、その当時、どうしても不登校適応指導教室そのものが、自治体だけで閉鎖的に行っているの、自分たちが行っていることが良いのか、悪いのかわからないということで、非常に悩まれた経験をお持ちでした。予てから、交流を深めてもらいたいというご意見を発せられておりまして、最近、ミニバレーを通じて、不登校の子どもたちも交流し、指導者も交流するという事業ができて、そのことを事例として報告させていただいたところ、それは大変すばらしいことなので、是非、続けて行ってほしいということがありまして、田中委員の熱い思いが、ここに込められたということもございます。

（中村委員長）何か深いメッセージが、ここに込められているのではないかと、感じたものですからお聞きいたしました。外部評価委員会からのご意見に対して、具体的に取り組む内容として、お話がありましたミニバレーを中心にして行うのか、別に事業を組み立ててみたいという思いがあるのか、その辺りの考えがありましたらお聞かせ下さい。

（三国部長）他の自治体との交流の機会となれば相手がありますので、難しい部分もあると思いますが、少なくとも出来上がったコミュニケーションの流れは、大事にしていきたいと思っています。当然、そこで職員の交流も図られていきます。その他にも、道の指導者向けの研修会も最近は増えてきていますので、そう言った部分にも派遣していきたいと考えています。子どもたちの部分を中心にした交流の機会ということについては、こども未来館を活用した活動も行っています。こども未来館が空いている時間になりますが、こどもコミュニケーションの指導者も方もいらっしゃいますし、そう言った方々との意見交換や情報提供を行うことが大筋の流れとして、事業展開して参りたいと考えています。

（中村委員長）先程、門馬委員からお話があったように、教育委員の活動が市民の方々に理解されるよう、様々な場に積極的に参加して参りました。その表現方法を巡って、色々議論を重ねて来たところではありますが、この度、外部評価委員会の方から市民が教育行政に関心を持ち、参加意識が高まるような工夫をして取り組んで欲しいという思いが寄せられていますので、出来るものは直ちに実施することとし、来年に向けて皆さんと一緒に取り組んで参りたいと思いますので、よろしく願います。

（中村委員長）他に質疑等がないようですので、議案第1号については、原案どおり可決ということでよろしいでしょうか。

異議なし

(中村委員長) ご異議なしと認め、議案第1号については、原案どおり可決しました。

(中村委員長) 以上で日程第2 議案審議を終了します。

日程第3 教育長報告

(中村委員長) 日程第3 教育長報告を議題とします。

(中村委員長) 教育長から報告をお願いします。

(樋口教育長)

- 9月30日 第61回全道へき地複式教育研究プレ大会
(厚田小学校・望来小学校)
市民カレッジ終了式
- 10月 1日 オータムコンサート
- 10月 2日 市内中学校文化祭
- 10月 4日 教育委員浜益小学校・中学校視察
- 10月 5日 教育委員会外部評価委員会
中学校音楽発表会
- 10月 6日 校長会
・前期のまとめと後期の取り組み
・市議会の一般質問の状況
・教職員の人事について
・教員の服務規律など徹底(交通事故・個人情報の管理など)
- 10月 8日 市PTA連合会研究大会・21回母親交流会
(花川南小学校)
- 10月12日 後期の学校経営始まり
- 10月14日 市民文化祭
- 10月16日 沖縄県恩納村中学生交流訪問(～19日)
- 10月21日 石狩市文化財保護審議会
- 10月22日 ユネスコ私のまちのたからもの表彰式
石狩市郷土研究会が「北海道文化財保護功労賞」の受賞
- 10月24日 教頭会

- ・全国学力・学習状況調査
- ・冬季への対応について

(中村委員長) ただいま、教育長から報告がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(伊藤委員) 教育長から報告がありました22日のユネスコ私のまちのたからもの表彰式の件についてですが、作品については、市民図書館並びに公民館に27日まで展示をさせていただいております。私も教育委員以外の立場で、ユネスコの会員としても、大変ご協力いただきまして、本当にありがとうございます。また、今後もよろしくお願いいたします。

(門馬委員) 市民文化祭の今年の盛況ぶりは、いかがだったでしょうか。

(樋口教育長) 花川南コミセンで行われました展示部門については、約2,000人弱ということで、やや増ということでした。今年、初めて手づくり能面の展示が行われて、大変目を引いた展示で印象的でした。花川北コミセンで行われました舞台部門については、1,264名という報告を受けています。対前年、123人の減ということで、やや減と聞いております。この点の部分については、小幅な異動でございますので、大きな変化がなかったものと受け止めています。

(中村委員長) 21日に、文化財保護審議会に諮問したということですが、この答申は何時ごろを予定し諮問なさったのでしょうか。

(樋口教育長) 今回の諮問内容については、大きく2つを考えております。最初の文化財全体の部分をどうしていくかということについては、来年の中ぐらいまでかかるだろうと考えています。浜益の郷土資料館のリニューアルの部分については、年明け早々にも答申をお願いしたところであります。

(中村委員長) 文化財全体ですから、それなりに時間がかかるということなのでしょうけれども、来年の中ぐらいに答申をいただいたとすれば、それを踏まえ政策にどう反映をさせて行くのですか。ものがものですから、市の総合計画に持ちあげていくというイメージでよろしいのでしょうか。

(樋口教育長) 石狩市全体の郷土資料の保存、展示のあり方という大きな話でありますので、特に郷土資料の部分については、3館をそれぞれ持っているということを考えますと、統一的に物事を考えていくのか、あるいは市民図書館のようところで現在保存している資料との連携ですとか、そういうことも当然含めて物事を考えていかなければならないと考えた場合、この基本的な答申を受けた後に、石狩市の郷土資料を保存、あるいは展示、活用していくという基本方針・基本計画のようなものを作って、それに実施計画を連動される中で、総合計画との

リンクというような形にならざるを得ないということで考えております。いずれにしても、現在の3つの施設を、ただ単純にリニューアルするということであれば、ダイレクトに予算化ということも考えられますが、更に将来を睨んだ展示の手法ということを見ると、設備投資ということも連動してきますので、まずは、基本をしっかり定める基本計画のようなものを作って、その中で総合計画と連動させるということが必要ではないかと感じております。

（中村委員長）総合計画と連動させるということになりますと、総合計画の見直しのタイミングが、一つのキーポイントとなりますか。

（樋口教育長）これからの5年間の総合計画の部分について、現在、見直しの作業を行っている最中ですが、総合計画の方には、全てをイメージした中で事業の頭出しはしていませんが、こういうことの一部は想定されるということで、企画部門には、後年時の遅い時期には、この点の部分は是非考えていただきたいという趣旨での事業計画書のようなものは上げております。最終的に、総合計画上にどう位置付けられるかということは、今後、市長部局との協議にはなりますが、一定程度これらをまとめて、更に総合計画の後年時の中で実現が出来ないかという部分については、階段ができるようなイメージにはしております。

（中村委員長）本件については、私もとても関心を持っているところです。今回、諮問し、全体部分の答申が出た場合の進め方については、市長が一番待ち望んでおられるのではと思っております。文化財関係の大きな課題に、一步踏み込んだところでありますので、次に向かってイメージを共有しながら、進めてまいりたいとの思いからお尋ねしたわけです。今の教育長の説明で理解ができました。

（中村委員長）他にございませんか。それでは教育長報告を了解しました。

（中村委員長）以上で、日程第3 教育長報告を終了します。

日程第4 報告事項

（中村委員長）日程第4 報告事項を議題とします。

① 東日本大震災被災地（名取市）への支援について

（中村委員長）①東日本大震災被災地（名取市）への支援について、事務局から説明をお願いします。

（丹羽副館長）本年の4月に、東日本大震災で大きな被害を受けた名取市に、教育委員会から職員を派遣し、支援活動を行ったところであります。その中で支援

先であった名取市図書館でございますが、私どもの支援も一助となり、その後、他の自治体や機関、市民ボランティアの方々の力によって、以前にも増した広がりを持った活動を続けております。この半年間の活動を下に、成果を発表する場として「名取市民図書館絆まつり」を11月5日、6日の両日開催されます。活動を再開しているとは言え、厳しい人員体制、建物が被災しておりますので、図書館ではなく市文化会館で実施を行うこともあって、非常に厳しい運営となるということを聞いています。今回は、教育委員会からは、百井館長をはじめ5名の職員を派遣し、このまつりの支援をしていきたいと考えております。その中で、石狩市の写真展、子母澤寛の展示等を行い、石狩市のPRも行っていきたいと思っています。後段でご説明申し上げますが、11月26日、27日に開催を予定している「石狩市民図書館まつり」においては、名取市の職員を招致して、生の声として、この震災で受けた被害や、復興の状況の様子などをお話していただくことも考えております。

（中村委員長）ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

（土井委員）絆まつりで提供される石狩鍋の件についてですが、民間への協力依頼とありますが、民間の人も一緒に名取市に行ってもらって、作ってもらうということですか。

（丹羽副館長）石狩鍋については、「あき味の会」が活動されています。会の方から3名の方に行っていただいて、お手伝いいただけるというように聞いております。

（伊藤委員）職員5名が派遣されるということで、体調を崩さないように頑張っていたきたいと思います。

（百井館長）5名の職員については、市の被災地支援という位置付けで行かせていただきますが、前回同様に具体的な内容が教育に関わるということでございまして、我々職員はもちろん頑張りますが、是非、責任のある立場の方にも行っていただいて、現場を見ていただきたいということから、教育長にも同行をお願いしています。日程が非常にタイトで、土・日1泊で帰ってくる形になりますが、そのような準備を整えていることも併せて報告させていただきます。

（中村委員長）他にございませんか。それでは報告事項①を了解しました。

② 第12回（平成23年度）図書館まつりの開催について

(中村委員長) ②第12回(平成23年度)図書館まつりの開催について、事務局から説明をお願いします。

(丹羽副館長) 今年度の図書館まつりは、11月上旬に名取市への支援を行うということで、11月の下旬に行うこととしました。11月の26日、27日の両日開催いたします。例年と同じような催しが中心となっていますが。ここ数年、昔話をテーマにしていたが、今年のテーマは「スポーツ」という新しい切り口で実施を行おうということで、図書館まつり運営委員会から上がってきました。「本」と「スポーツ」ということで、面白い催しができるのではないかと考えています。また、名取市図書館からの報告会というのも、一つの特徴となっているところです。是非、見学いただければと思っています。

(中村委員長) ただいま、事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(門馬委員) スポーツということがテーマですが、具体的にスポーツと図書館との関係というのは、両日開催の本の特集「スポーツーはじめの一步ー」という部分でしょうか。それとも例えばマジックショーの中で、何かスポーツというのが入ってくるようなことがあるのでしょうか。

(丹羽副館長) 門馬委員がおっしゃる通り、本の展示が中心になると思います。図書館には、スポーツ・運動に関する本が多いので、読書以外の本の楽しみ方を知っていただくということになると思います。マジックショーでは無理かと思いますが、お話し会の中では、スポーツという要素が出てくるかと思いますが、DVD上映会ということで、ストレッチなどスポーツに関わる部分等、図書館とは違う切り口の催しを行うことを考えております。

(中村委員長) 他にございませんか。それでは報告事項②を了解しました。

(中村委員長) 以上で、日程第4 報告事項を終了します。

日程第5 その他

(中村委員長) 日程第5 その他を議題とします。

(中村委員長) 事務局からございませんか。

① 厚田区の学校に関する検討について

（上田課長）私の方から厚田区の学校に関する検討について、口頭でご報告いたします。7月から9月の3回に亘り、教育委員会協議会の場で厚田区の学校に関する検討について、ご議論いただいたところです。9月の教育委員会協議会での結論を踏まえて、地域に入っていく行動に移ろうというところであります。一つ目は、聚富中学校の複式化に関する部分で、日程を調整していますが、聚富の小中学校の保護者を対象にした意見交換会を開催したいと考えております。その中には、町内会などの地域を代表される方にも加わっていただくようなイメージを持っています。これについては、11月中に開催ができるように取り進めており、2回目以降については、会の開催方法等についてPTAの方々と相談しながら、どこかの時点で、一定の方向性を出してもらうよう取り組みたいと考えています。二つ目は、厚田区内の学校の配置にかかる検討の部分についてです。こちらについても厚田支所も含めて調整を行っているところですが、保護者の代表の方ですとか、地域の代表の方と、将来の厚田区内の学校をどう考えていくか、地域の意向を把握する場を設けたいということで考えております。こちらについては、メンバー構成や人選等を検討しているところで、年内に第1回目の会議を開催できるよう、それぞれ取り組んで参りたいということで報告させていただきます。私からは以上です。

（中村委員長）ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

（中村委員長）本件については、前回の教育委員会協議会での結論を踏まえ、それに基づいて第一歩を踏み出したいということでございますので、その方向でお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

異議なし

（中村委員長）それではその他①を了解しました。

（中村委員長）他にございませんか。

② 科学の祭典 in 石狩について

（丹羽副館長）科学の祭典 in 石狩のチラシをお配りさせていただきました。概要

については、先月にご報告させていただきましたが、チラシが出来上がりましたので、是非、ご参加していただければと思います。裏面の方を見ていただきますと、出展ブースの内容も決まりましたので掲載しています。特に、鈴木-宮浦クロスカップリング反応というのは、昨年、ノーベル賞を受賞された鈴木教授の研究を我々にもわかるように解説してくれるのかなと、個人的には楽しみにしています。

（中村委員長）ただいま、事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

（中村委員長）チラシ裏面に、出展ブースは21とありますが、内容が豊富でとてもバラエティに富んでいると思います。市民図書館とこども未来館と二手に分かれて展開するということですが、市民図書館のエントランスホールの方では、どのくらいのブースが出展される予定ですか。

（百井館長）今まさに、この日曜日から割り振りをしている最中です。今回の事業趣旨の中に、こども未来館のオープンということもありますことから、メインはこども未来館という位置付けをしております。従って、数的にもブースの多くは、こども未来館の方に設定しようということで考えております。最終的な配置は、調整を行っているところです。

（土井委員）科学の祭典 in 石狩の後援に、石狩市校長会、石狩市教頭会、石狩市教育振興会が入っています。たくさん子どもや市民が祭典に参加することを願っていると思いますが、PR活動の方法や各学校への働きかけというのはどのような形で行っていますか。

（丹羽副館長）このチラシは、市内の全小、中、高の児童生徒、全員に亘るように配付しております。動員要請ということではなく、各学校には、先生方にもチラシを配付して、お越し下さいという文書も配付させていただいています。

（土井委員）もっと、強い働きかけをしているのかと思ったものですから、質問させていただきました。

（百井館長）土井委員からご意見をいただいた件についてですが、準備を進めるための実行委員会にも、既に校長会や教頭会、石教振からメンバーに入っていて、ブースの出展にかかるところから教職員の方々に、ご理解をいただいて動いていただいております。その延長線上に当日の子どもたちの参加ということでもありますので、かなり学校としても組織として、一生懸命やっけていただいているということで、とても感謝しているところです。

(中村委員長) それでは、その他②を了解しました。

(中村委員長) 他にございませんか。

③ 第7回手作り布の絵本全国コンクールについて

(丹羽副館長) 先日、桐生市で行われた第7回手作り布の絵本全国コンクール実行委員会におきまして、石狩市民図書館で活動するボランティアサークル「布の絵本にじ」の作品が、空想の翼賞を受賞した旨の連絡がありました。作品は、11月の3日から4日まで桐生市で展示されています。「布の絵本にじ」は、2年前のコンクールで織姫賞、4年前のコンクールでは佳作ということになっています。今回の空想の翼賞というのは、3番目の賞ということだそうです。

(中村委員長) ただいま、事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答 なし

(中村委員長) それでは、その他③を了解しました。

(中村委員長) 他にございませんか。

④ 教育委員と図書館協議会委員との意見交換について

(百井館長) 私の方からは、議案第1号でも話題となりましたが、教育委員の皆様と教育委員会所管の審議会等の委員の方との意見交換の場について、ご提案を申し上げたいと存じます。既に社会教育委員の方との意見交換は、昨年されているということでございますけれども、この度、図書館協議会の委員の皆様との意見交換の場を設けていただきたいと考えているところです。内容については、第1回目でもありますので、日頃、図書館協議会委員の方が課題と思っているようなことを委員の皆様にお伝えするということと、加えて何かテーマを絞って意見の交換ができるような機会となるように考えております。例えば、直近の課題としては、学校図書館に対する支援などもその一つかと思えます。テーマの設定については、皆様からのご意見を今後いただくのと、図書館協議会の委員からも意見を聞いて調整をさせていただければと思っております。具体的な場面の設定についてですが、図書館協議会の会議の日程に合わせるとか、別に日程を設けるとか、色々な手法があるかもしれませんが、先程、ご案内させていただきましたが、図書館まつりという催しが2日間に亘っておりますので、例えば、委員の皆様が、

日頃図書館に関わるボランティア、関係団体の方々の日常的な姿を見ていただくという点では、図書館まつりが適切な場ではないかということを手勝手に思っています。もし宜しければ、図書館まつりをきっかけにさせていただいて、ご覧いただきながら、その延長で別に意見交換する場を設けることが考えられないかどうかということで、是非、ご検討いただければありがたいと思っております。よろしくお願いします。

（中村委員長）早速、他の教育団体等との意見交換の機会を提案していただきありがとうございます。11月のタイミングでいかがでしょうかということですが、折角の機会ですから意見交換に参加するということによろしいでしょうか。

異議なし

（中村委員長）教育委員として、是非参加いたしたいと思います。

（百井館長）図書館まつりということになりますと2日間ということで、日程がかなり限定されますので、まずは、日程調整をさせていただいて、その方向で考えさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

（中村委員長）図書館協議会の方々がこの2日間の日程の中で、一番時間が取りやすい部分はどこでしょうか。

（百井館長）プログラムの言いますと、今年度の特徴は、スポーツというテーマがありますが、何よりも名取市の皆さんが直接いらっしゃるということで、その時間帯が土曜日の3時から4時の間で設定をさせていただいております。そう言った場面を見ていただくということをセットにしますと、土曜日の夕方ということになります。場所的に考えますと、一度、市役所に戻ってきていただいとということであれば、土・日ですから、どこの会議室も空いていると思うのですが、同じ図書館内で開催するということであれば、2日間、殆どの場所が埋まっているということですが、土曜日の名取市が行っている時間若しくは名取市の部分が終了した後の時間帯は、視聴覚室が空いているということもありまして、市民図書館としては、土曜日の2時、3時あたりから委員の皆さんに図書館まつりを見ていただいて、終わって夕方4時くらいから1時間程度、意見交換の場を設けさせていただければ、こちら側の勝手な部分でございますが、ソフト・ハード的に良いかなと思っております。もし、日曜日ということであれば、もう一度考え直して、プログラムと場所がキープできるか検討させていただきたいと思います。

（中村委員長）土曜日とのご提案がありましたので、私どもも応えていきたいと

思います。

(中村委員長) それでは、その他④を了解しました。

(中村委員長) 他にございませんか。

⑤ 紀伊國屋書店でのイベントについて

(工藤課長) 皆様のお手元に、小型のチラシが2枚配付をさせていただきました。この2つのチラシについて、説明をさせていただきます。片方がウミベオグラフィー～石狩海辺博物学～、もう1枚がウミベオロジー～石狩海辺学～ということです。会場は、札幌の紀伊国屋書店札幌本店でございます。ウミベオロジーというのは、トークイベントになっています。いしかり砂丘の風資料館の学芸員、石狩浜海浜植物保護センターの職員、小樽市総合博物館の学芸員の3人で、それぞれが石狩浜の海辺の魅力を語ります。ウミベオグラフィーというのは、紀伊国屋書店札幌本店の2階の奥の方に展示スペースがありまして、そちらの方で6日間に亘って石狩浜に関わる漂着物であったり、歴史であったり、海浜植物であったり、様々な気象であったり、様々なパネル展示を行うこととしています。この事業については、このチラシの右下に「いしかり館ネットワーク」という小さなロゴがありますが、昨年から進めている石狩市内の資料館、図書館、公民館、海浜植物保護センターが連携して事業を行うということで、その中の一つの事業であります。基本的な企画というのは、資料館学芸員の方でしておりますが、運営については、それぞれの職員が関わって進めているところであります。トークイベントについては、これまでにはありませんでしたが、石狩市の専門職の学芸員が自分の言葉で石狩の魅力を語るというような考え方でおります。石狩の魅力を語ることにについては、例えば、観光であったり、色々な農産物、水産物であったり、これまでも色々な形ではされて来てはいますが、今回については、学芸員の言葉として、学芸員の表現の仕方として石狩の魅力を札幌で語るという企画であります。初めての試みでありますので、様々な不安な部分がありますが、時間がございましたら見ていただければと思っています。

(中村委員長) ただいま事務局より説明がありましたが、この件についてご質問等ありませんか。

質疑応答

(土井委員) 図書館主催の館巡りに参加させていただきまして、このアオイガイすごいですよ。皆さんもうご存じだと思いますが、初めて知りました。私が教員

をしていた時には、まだ漂着していなかったのですね。この頃、たくさんあるということで、これに少し目を奪われました。自然はすごいなあというか、そういう面、札幌でイベントを行うということで、たくさんの人が来てくれるといいですね。そうすると、石狩にも足を運んでもらえるのではないかという期待をしております。よろしくお願いします。

(門馬委員)「ウミベオグラフィー」、「ウミベオロジー」、この言葉は作った言葉ですか。

(工藤課長) 担当の学芸員が考えたものです。

(中村委員長) 学芸員の皆さんが、自ら研究なさっている部分を発表する機会を、紀伊国屋書店が提供して下さったというのは、大変有難いことだと思います。

(中村委員長) それでは、その他④を了解しました。

(中村委員長) 他にございませんか。

(中村委員長) 教育委員の皆さんからございませんか。

⑥ 厚田学校給食センターのエアコンの件について

(伊藤委員) 11月4日に行われた教育委員の視察に参加できなかったため、翌々週に無理言いまして、浜益小学校と浜益中学校、それから厚田学校給食センターに行かせていただきました。浜益中学校は、引っ越しに際して、非常に教頭先生が頑張ったようですけど、他の先生方も相当時間を割いていただくなど、大変苦勞されたという話を聞きまして、とても感銘を受けました。浜益小学校では、授業も拝見させていただきましたが、子供たちも生き生きと勉強して、情報化の機器も十分使われていて、非常に素晴らしいなと思ったところです。一つだけ、厚田学校給食センターの空調に関して、少し気になりました。雑菌が入り込まない場所で作業されている中で、施設にはエアコンがないということでした。今年の夏は、非常に暑かったという話を聞きまして、給食をつくる人の環境も含めて整備を行わないとならないのではないかと思います。子どもたちへの大切な食事をつくるにあたり、今後、何か問題が起きないのかと少し気になったところです。当然、お金がかかることですから、簡単にエアコンを付けるわけにはできないのですが、どうなのかなというところで気になりました。ご提案だけさせていただきたいなと思います。

(中村委員長) ただいま伊藤委員よりご提案がありましたが、この件について事務局よりご意見等ありませんか。

(池垣課長) エアコンの件ですが、今年度、予算要求をいたしました、残念ながら予算措置されませんでした。エアコンの設置について、次年度においても予算要求していく考えでございます。厚田学校給食センターも含め、石狩に2つあります第1、第2の給食センターも含めて、空調の整備ということで要求していきたいと考えております。

⑦ 給食センターについて

(土井委員) 給食センターの視察をして、働く人、それから栄養士さんの黒川さん、給食に関わる栄養士、それから事務をやっている方、皆さん大変熱心で、パンも地産地消の関係で工夫をして、紫蘇入りパン、かぼちゃ入りパンとか、にんじんパンも検討したらどうかというような話があるなど、色々な話をきて、すごく工夫されているということがわかりました。石狩市ならではの、海の幸、山の幸があって、色んな地の利を活かし開発し、そして子供たちにそれを提供して下さっているということで、とても感心しました。施設を見させていただいて良かったと思いました。現場の話、黒川さんの話、色んな人のお話を聞くこともできましたし、それから床がドライ方式をとっているということで、食育についても関係者の方々は考えて下さっているということで、すごく感動して帰ってきました。石狩市内には、第1、第2の学校給食センターがありますが、そこも見せていただけたらなというような感じを持ちました。厚田の子供たちは、すごく恵まれている感じがしました。保育所にも給食が提供されているということで、子供たちが小さい頃から食に対して、良いものを摂っているのは、とても良いことだと思うので、脳に良いのではないかなと期待しているところです。働いている人だとか、それに携わっている人のお話を聞きたいと思ひまして、機会がありましたら、第1、第2の学校給食センターを見させていただけたらと思っております。

(中村委員長) ただいま土井委員より、第1、第2学校給食センターの視察についてご提案がありましたが、事務局の方で日程調整をしていただければと思いますが。

(三国部長) 畏まりました。早い時期に設定したいと思ひます。

(中村委員長) よろしくお願ひします。

⑧ 教育委員の視察に関連した食育関連等について

(門馬委員) 前回の視察に関して、私が感じたことは、浜益の小学校・中学校で、地域の伝統的な歌、それから伝統的な暮らし、これを地域の方々と一緒に大切に学びながら、次に伝えていこうという努力をされています。それが人形等々の作品や歌でありました。すごいなと思いました。一昨日NHKの中で、神楽を親から子へ子から孫へ伝えていく、それに歌舞伎役者が感動しているという場面がありました。自分の土地を大事にして、その歴史と伝統を次に伝えていくという努力を学校と地域が共にしているということに、浜益を見てすごく感激をいたしました。それは自分の郷土を誇りに思い、愛するということに繋がるだろうなとしみじみ思いました。それから食育の話が出ましたが、確かに学校給食で、担任の先生方、給食担当の先生方が一生懸命になってやって下さるのは、もちろん大切な素晴らしいことですが、一方で家庭での食育というのは一体どうなっているのかというのをとても不安に思います。今朝のNHKのニュースでも東京のある小学校で、基本的な味を子供たちに教えるという場面がありました。2割の子供は味がわからない、本物の味がわからない、それは家庭でのきちんとした食事がされていないという報告でした。学校では給食を通じて食育がなされますが、家庭でどうなっているのかなということをすごく不安に思いました。

(土井委員) 私もそれは気になって、いつも食育、食育と言っているのはそのことなのです。本当に家庭の食生活、これは全国的なものですが、家庭の食育は朝ごはんだと思います。それが今、崩壊しているような状態なものですから、だから私は、それを家庭と地域とで何とか高めていかなければならないのかなというのが一つ、それと、せめて学校で、学校給食の中で故郷の味を染み込ませてあげたいと思っています。ですから、給食で、食育、何とか故郷の味とそれから正しい食事、それを先生方にも気遣っていただければ、子供達の心も体も健康になれるのではないかなという気持ちでいます。そこは、本当に何とかしたいとこだと思っています。

(門馬委員) 学校だけでは、実現できないものですね。

(土井委員) 小さい頃から必要だと思います。赤ちゃんの頃から始まっていますから。小さければ、小さい時ほど大事だと思います。

(中村委員長) 食育の部分は、私も本当に大事だと思っています。学力・学習状況調査の中で、家庭での朝食はどうかという部分では、石狩でも朝ごはんを食べていないという子供たちがいるわけです。生活習慣にしても、学習習慣にしても、土井委員が食育を通じて広げていきたいという思いは私も同感です。地域の味という土井委員のお話しですが、文化祭、学芸会など地域に出かけ、色々なものを見たり食べたりしますと、それを強く感じます。これは浜益、これは厚田だというものすごいインパクトのあるものを持っており、そういうものを大事にしていくということが、私の仕事の中心テーマだという思いがありますので、一緒に

取り組ませていただければと思っています。

話は変わりますが、前回の学校訪問で、伊藤委員がプレゼントしたテニスボールの椅子カバーが浜益小学校にありまして、椅子がスッと簡単に引くことができ静かで、大変良いものをプレゼントなさったと思ったところです。先生方も感謝していました。

⑨ 平成24年度予算について

（中村委員長）平成24年の予算要求の時期が参りましたが、今年も市長と教育委員との意見交換の場を設けていただきたいと思います。そこで、事務局の方をお願い申し上げたいのは、教育プランに基づく平成24年度の重点事業を、次回の11月の教育委員会会議に提出していただき、協議させていただきたいのであります。市長との意見交換に活用して参りたいと考えておりますので、事務局のお考えもお聞かせいただければと思います。

（三国部長）お話は、承りました。そうしますと両方の日程を合わせながら見ていくということになりますでしょうか。同日というわけには、少し無理だと思います。

（中村委員長）次回の教育委員会会議では、皆さんから24年度予算要求事業についてお聞かせいただき、各教育委員との意見交換を深めさせていただきたいと考えております。

（中村委員長）他にございませんか。

（中村委員長）他になければ、以上で、日程第5 その他を終了します。

日程第6 次回定例会の開催について

（中村委員長）日程第6 次回会議の開催日程を議題とします。

（中村委員長）次回については、11月22日の火曜日、13時30分からの開催を予定しております。よろしくお願い申し上げます。

閉会宣告

（中村委員長）以上をもちまして、10月の定例会の全ての議題は終了いたしました。本日は、これをもって閉会いたします。

会議録署名

平成23年11月22日

委員長 中村 照 男

署名委員 門 馬 富士子